

2025年3月期 中間期
決算説明資料

共英製鋼株式会社

(東証プライム：5440)

1

決算ハイライト

2

2025年3月期 中間期決算報告

3

2025年3月期 通期業績予想

4

中期経営計画 進捗状況

1

決算ハイライト

2

2025年3月期 中間期決算報告

3

2025年3月期 通期業績予想

4

中期経営計画 進捗状況

■ 2025年3月期 中間期 実績

- ・ 売上高 1,610億円、経常利益 61億円（前年同期比 増収減益）
- ・ 出荷量 152万トン（前年同期比 +6万トン）
国内：73万トン、海外：80万トン
- ・ 国内鉄鋼事業は出荷量減少が影響し、前年同期対比減収減益
海外鉄鋼事業はベトナム拠点の回復基調、赤字幅は縮小

■ 2025年3月期 通期業績予想 修正

- ・ 通期業績：売上高 3,360 → 3,230億円
経常利益 180 → 150億円
- ・ 通期出荷量：318万トン（前期比 +11万トン）
国内：146万トン、海外：172万トン
- ・ 国内鉄鋼事業はスプレッド拡大も出荷量減少により前期対比減収減益の見通し
海外鉄鋼事業はベトナム拠点は回復基調、カナダ拠点も好調に推移、
前期対比増収 赤字幅縮小の見通し
- ・ 年間配当予想に変更なし 1株当たり90円（中間 30円、期末 60円）

1

決算ハイライト

2

2025年3月期 中間期決算報告

3

2025年3月期 通期業績予想

4

中期経営計画 進捗状況

2025年3月期中間期 業績

前年同期対比増収も、利益は減益

期間：2024年4月1日～9月30日

	単位	2024年3月期		2025年3月期			前回予想 上期	増減	
		上期	下期	1Q	2Q	上期		対前期上期	対上期予想
売上高	億円	1,555	1,654	783	827	1,610	1,630	+55 +3.5%	▲20 ▲1.2%
営業利益		99	111	31	28	59	60	▲40 ▲40.5%	▲1 ▲1.4%
経常利益		100	110	39	23	61	65	▲39 ▲38.6%	▲4 ▲5.6%
当期純利益		79	60	26	24	51	50	▲28 ▲35.6%	+1 +1.3%

セグメント別業績概要（2025年3月期 中間期）

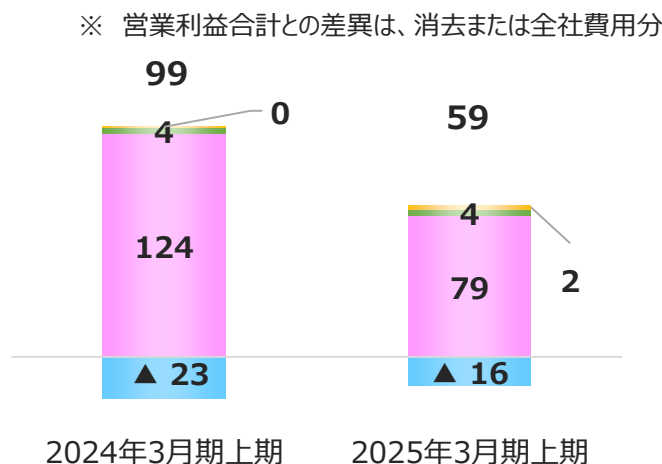
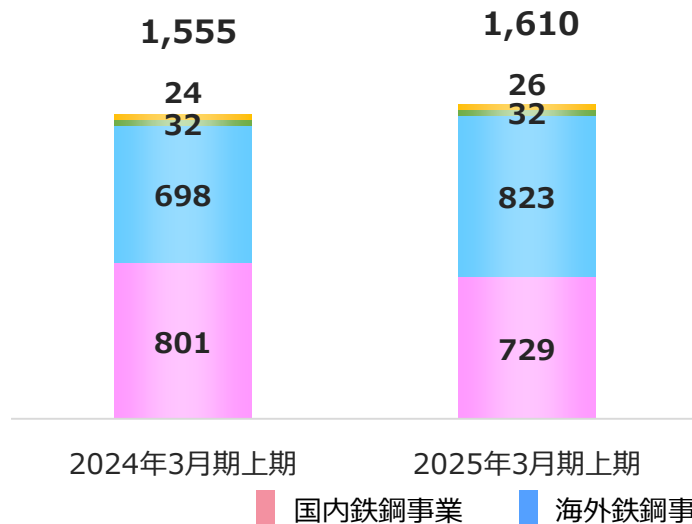
- ・ 国内鉄鋼事業は生産量・出荷量の減少で前年同期対比減収減益
- ・ 海外鉄鋼事業は前期上期大底だったベトナムが回復基調となり、増収赤字幅縮小（2Q黒字）
- ・ 環境リサイクル事業は医廃処理量低調で前年同期対比微増収ながら微減益

売上高（億円）

	2024年3月期			2025年3月期			前回予想
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	上期
国内鉄鋼事業	418	384	801	382	347	729	760
海外鉄鋼事業	320	378	698	371	452	823	805
環境リサイクル事業	16	15	32	17	15	32	40
その他事業	12	12	24	13	13	26	25
合計	766	789	1,555	783	827	1,610	1,630

営業利益（億円）

	2024年3月期			2025年3月期			前回予想
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	上期
	62	62	124	47	32	79	77
	▲ 13	▲ 10	▲ 23	▲ 18	2	▲ 16	▲ 17
	3	1	4	3	0	4	6
	0	▲ 0	0	1	1	2	2
	49	51	99	31	28	59	60



国内鉄鋼事業

売上高：729億円

営業利益：79億円

前年同期比 減収・減益

- 建設現場の人手不足や酷暑による工期遅れのため、生産量・出荷量ともに前年同期を下回る
- 荷動きが悪い中、価格維持に努め、メタルスプレッドは前年同期対比微減に留める

海外鉄鋼事業

売上高：823億円

営業利益：▲16億円

前年同期比 増収・増益

- **ベトナム**
前期上期大底だった鋼材需要が回復基調となり、赤字幅縮小（2Q黒字）
- **北米**
需要は引き続き堅調なるも、米国拠点の設備老朽化や漏鋼事故の影響での減産によるコスト高影響大

環境リサイクル事業

売上高： 32億円

営業利益： 4億円

前年同期比 増収・減益

- 前年同期対比 売上高、利益ともほぼ同水準
- 医療廃棄物処理案件における競合との価格競争激化、設備不調によりコストの増加により業績改善は遅れる

その他事業（鉄鋼周辺事業）

売上高： 26億円

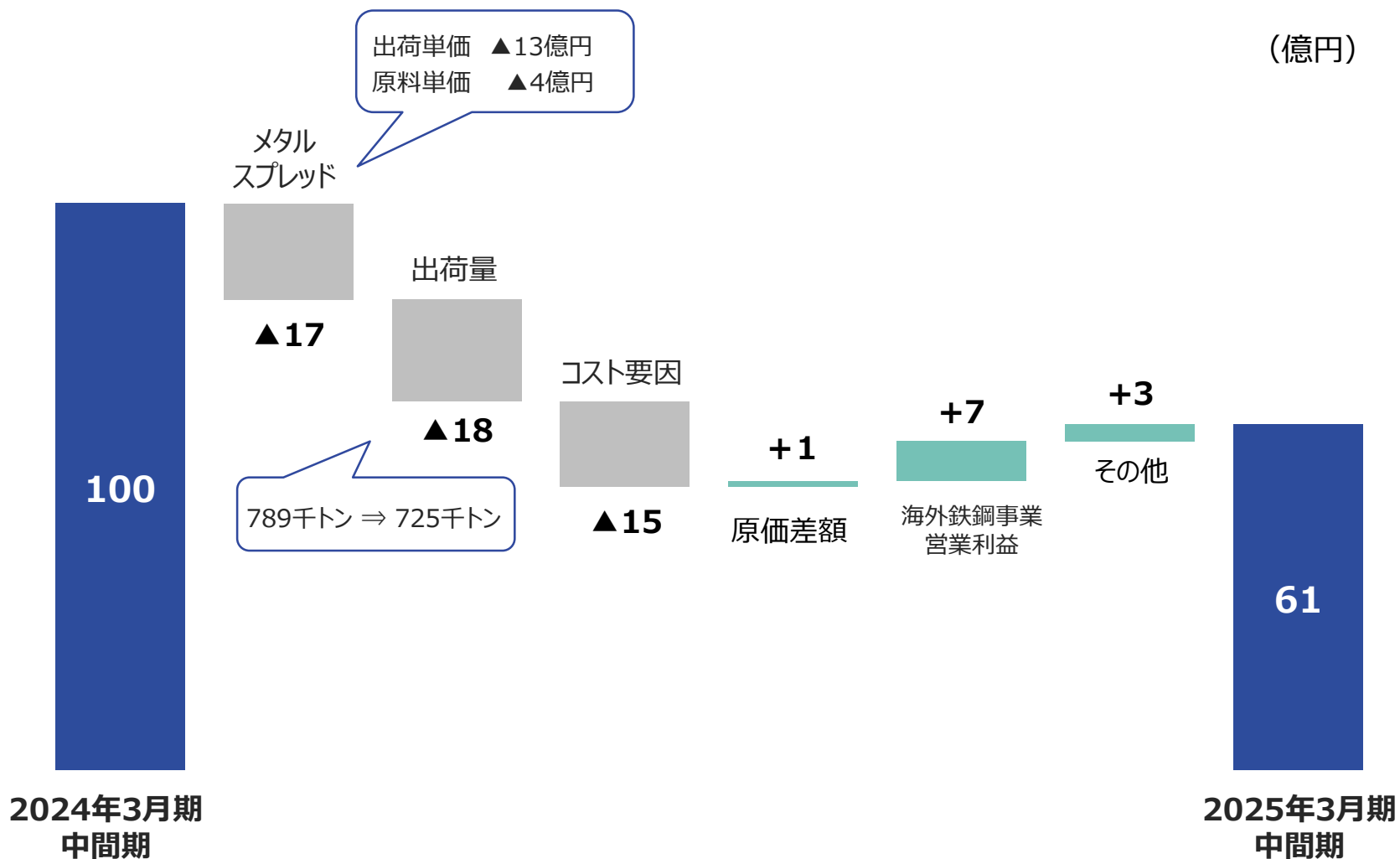
営業利益： 2億円

前年同期比 増収・増益

- 国内鋳物事業：
電力費などによるコスト増加によって減益
- ベトナム鋳物事業：
数量増とメタルスプレッド拡大で増益
- ベトナム港湾事業：
VKS社生産量回復による輸入スクラップ取り扱い量増により増益

経常利益の変動要因 (前年同期対比)

2025年3月期 中間期の経常利益が 前年同期対比39億円減少した要因



1

決算ハイライト

2

2025年3月期 中間期決算報告

3

2025年3月期 通期業績予想

4

中期経営計画 進捗状況

業績予想修正（2025年3月期 通期）

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益を下方修正
 なお、下期にも特別利益（受取保険金）を計上する見込み
 配当予想は据え置き 【配当方針：配当性向（連結）30～35%】

前回予想（7月31日）

	2025年3月期		
	上期	下期	通期
売上高	1,630	1,730	3,360
営業利益	60	115	175
経常利益	65	115	180
当期純利益	50	75	125

	中間	期末	年間
1株当たり 配当金	30	60	90

※為替前提 通期 140円/\$

今回予想（10月31日）

	2025年3月期			増減率 (対前年実績)
	上期	下期	通期	
売上高	1,610	1,620	3,230	(▲3.9%)
営業利益	59	91	150	(▲14.3%)
経常利益	61	89	150	(▲16.7%)
当期純利益	51	69	120	(▲4.0%)

	中間	期末	年間	配当性向
	30	60	90	32.6%

※為替前提 下期 145円/\$

セグメント別業績予想（2025年3月期 通期）

- ・ 国内鉄鋼事業（下期）は、前回予想より減収となるも利益は概ね同水準
- ・ 海外鉄鋼事業（下期）は、前回予想より減収減益となるも、黒字化の見通し

売上高

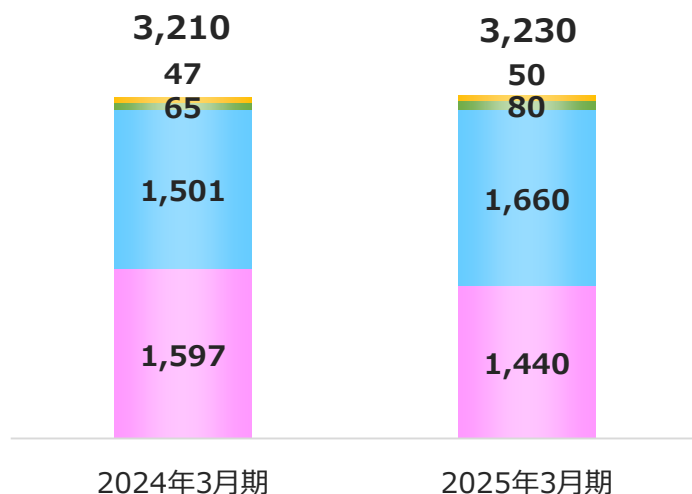
(億円)

	2024年3月期			2025年3月期			前回予想
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期
国内鉄鋼事業	801	796	1,597	729	711	1,440	1,560
海外鉄鋼事業	698	803	1,501	823	837	1,660	1,670
環境リサイクル事業	32	33	65	32	48	80	80
その他事業	24	23	47	26	24	50	50
合計	1,555	1,654	3,210	1,610	1,620	3,230	3,360

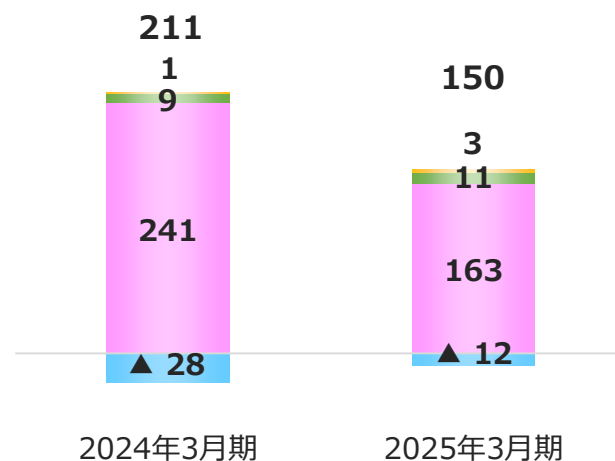
営業利益

(億円)

	2024年3月期			2025年3月期			前回予想
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期
	124	117	241	79	84	163	164
	▲ 23	▲ 5	▲ 28	▲ 16	4	▲ 12	9
	4	6	9	4	7	11	13
	0	1	1	2	1	3	3
合計	99	111	211	59	91	150	175



※営業利益合計との差異は、消去または全社費用分



国内鉄鋼事業 海外鉄鋼事業 環境リサイクル事業 その他の事業

セグメント別通期業績予想 (1)

国内鉄鋼事業

売上高 : 1,440億円
 営業利益 : 163億円
 前期対比 減収・減益予想

- 出荷量は前期対比減少の見通し
- 原材料価格の大幅下落によって、メタルスプレッドは前期対比拡大する計画

海外鉄鋼事業

売上高 : 1,660億円
 営業利益 : ▲12億円
 前期対比 : 増収・増益予想

- **ベトナム**
 需要は回復基調にあり、南部拠点では出荷量の回復やコスト削減策により、通期黒字見通し
 北部は前期対比出荷量増加も競合の攻勢が強く、通期赤字の見通し
- **北米**
 米国拠点は市況の下落により売買差縮小、下期も赤字継続の見通し
 カナダ拠点は市況回復による出荷量大幅増加と、細物鉄筋のエキストラ価格によるスプレッド拡大、下期は大幅な利益増を見込む

セグメント別通期業績予想（2）

環境リサイクル事業

売上高： 80億円
営業利益： 11億円

前期対比 増収・増益

- 難処理廃棄物の許認可拡充などの強化により、下期は収益改善を目指す

その他事業（鉄鋼周辺事業）

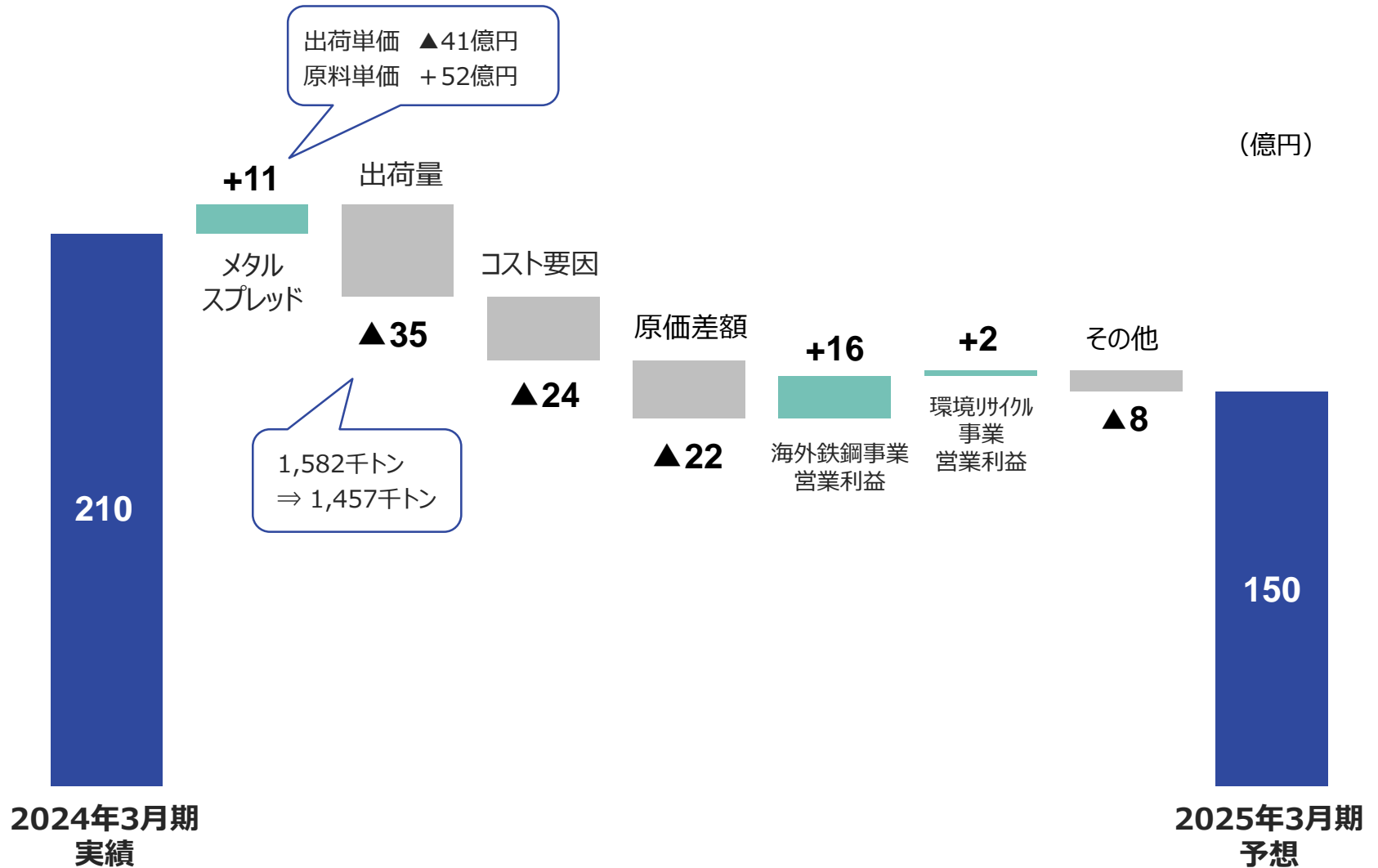
売上高： 50億円
営業利益： 3億円

前期対比 増収・増益

- 国内鋳物事業：
コスト上昇分の価格転嫁と製造コスト削減を継続
- ベトナム鋳物事業：
製品価格の維持と日本向け新規顧客獲得に注力し、増益を見込む
- ベトナム港湾事業：
港湾の効率運用努力や営業ラインの見直しを行い、通期黒字を見込む

経常利益の変動要因：通期予想（前期実績対比）KYOEI STEEL

2025年3月期通期の経常利益が前期実績対比60億円減少する要因



1

決算ハイライト

2

2025年3月期 中間期決算報告

3

2025年3月期 通期業績予想

4

中期経営計画 進捗状況

	2024年3月期	2025年3月期		2027年3月期
	実績	前回公表値	今回公表値	最終年度目標
売上高	3,210億円	3,360億円	3,230億円	3,800億円
経常利益	210億円	180億円	150億円	250億円
当期純利益	138億円	125億円	120億円	175億円
出荷量	307万トﾝ	324万トﾝ	318万トﾝ	400万トﾝ
(国内)	158万トﾝ	156万トﾝ	146万トﾝ	160万トﾝ
(海外)	149万トﾝ	169万トﾝ	172万トﾝ	240万トﾝ
ROE	7.4%	7.3%	6.0%	8%以上
配当性向	28.3%	31.0%	32.6%	30~35%
設備投資・事業投資	115億円	-	-	-
		1,100億円／3年		

中計初年度は想定以上に厳しい事業環境となるも、環境変化に対応し計画達成を目指す

■ 国内鉄鋼事業

2024年問題（建設・物流現場の人手不足や働き方改革）、猛暑による工期の遅延、長期化により出荷量は前年度対比減少も、「需要見合いの生産に徹する」ことでメタルスプレッドは高水準を維持

■ ベトナム事業

中国経済の低迷とそれに伴う鋼材輸出の影響で競争環境は依然厳しいものの、需要は回復基調にあり出荷量は増加、コスト削減施策の継続などにより赤字幅縮小

■ 北米事業

アメリカ拠点では火災事故以降の操業の安定化に時間を要し業績は低迷
短期的にはコスト削減施策を実施、将来を見据えた製鋼工場新設を決議
カナダ拠点は細物鉄筋の販売が本格化し収益拡大へ、ヤード拡張による拡販施策は計画通り進捗

■ 成長を支える基盤強化

ブランディング活動、人的資本投資などの取り組みは計画通り進捗

事業の成長に向けた取り組み（成長戦略）

国内鉄鋼事業

国内4事業所の連携強化と
関東圏におけるプレゼンス向上
(川上・川下戦略の実現によ
る事業基盤の強化)

海外鉄鋼事業

世界3極体制のウエイトシフ
トによる収益力強化
(北米事業強化と
ベトナム事業再構築)

環境リサイクル事業

電炉溶融処理の先駆者
としてのプレゼンス向上

成長を支える基盤強化

無形資産投資

「100年企業」を
目指した
ESG経営

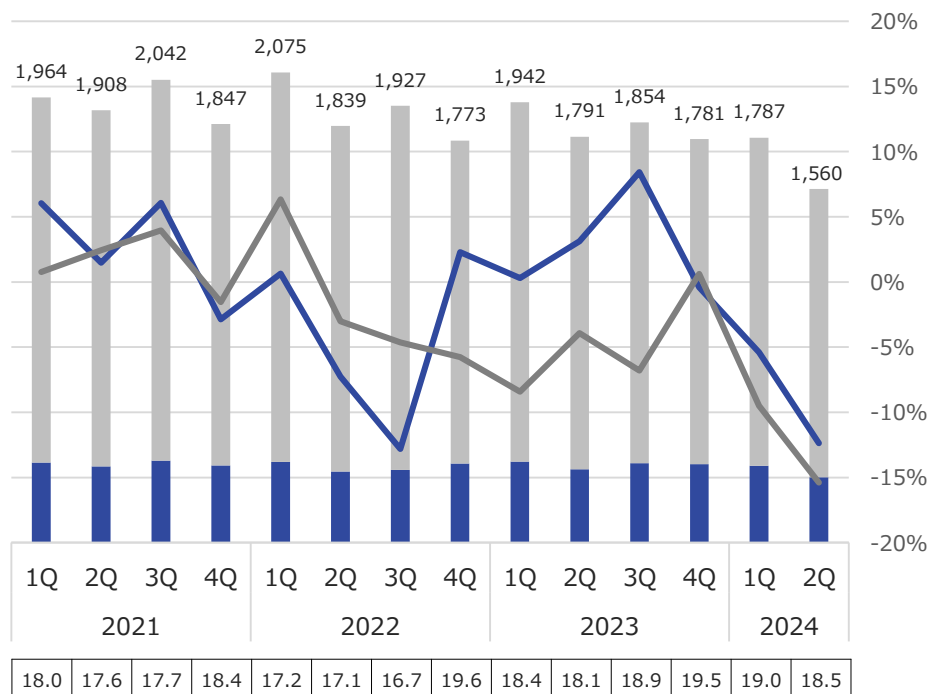
経営基盤の強化

<初年度の状況>

- 利益はほぼ計画通り進捗
- 2024年問題（建設・物流現場の人手不足や働き方改革）、猛暑による工期の遅延、長期化により出荷量は減少（前年同期対比▲8.1% 全国小形棒鋼生産量：前年同期対比▲10.4%）
- 「需要見合いの生産に徹する」ことでメタルスプレッドを維持

全国小棒生産量と当社生産量・前年同期比増減率 単位
生産量：千トン
増減率：%

■ 共英製鋼 ■ 共英製鋼以外 — 共英 増減率 — 競合他社 増減率

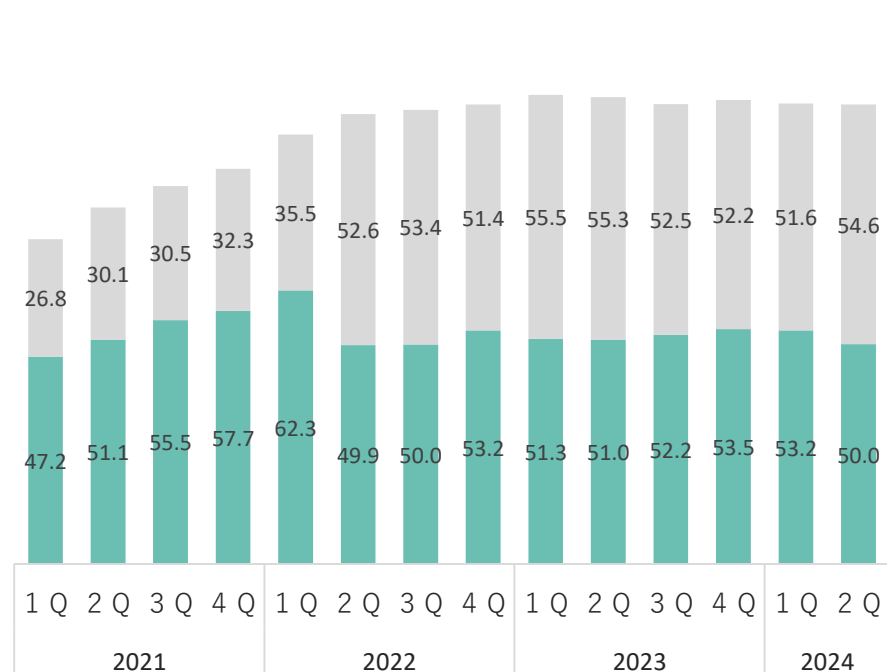


共英製鋼シェア (%)

※増減率は前年同期で比較

スクラップ消費単価・メタルスプレッドの推移 単位：千円

■ スクラップ消費単価 ■ メタルスプレッド



<今後の見通し・対策>

- ① 引き続き「需要見合いの生産」に徹することで、高いメタルスプレッドを維持
- ② 2024年問題（物流）への対応の継続（デリバリー力の強化）
 - 中継地の拡充・倉庫の建設検討（名古屋・山口）
 - ドライバー不足対応：運輸を担うグループ会社の労働環境・条件改善
- ③ 川上戦略（スクラップ調達力の強化）
 - グループ会社によるサテライトヤード（愛知県知多市）の開設（2024年5月）
- ④ 関東（首都圏）戦略の強化
 - 関東事業所の機能強化
 - 国内各所、グループ会社との連携強化

川上戦略



知多ヤード

関東（首都圏）戦略



関東事業所



共英産業 厚木工場



共英産業 成田工場

2022年度以降計画未達の原因

- ① ベトナム事業の不振 政治的要因と構造的要因
- ② 米国ビントン・スチール社の火災事故

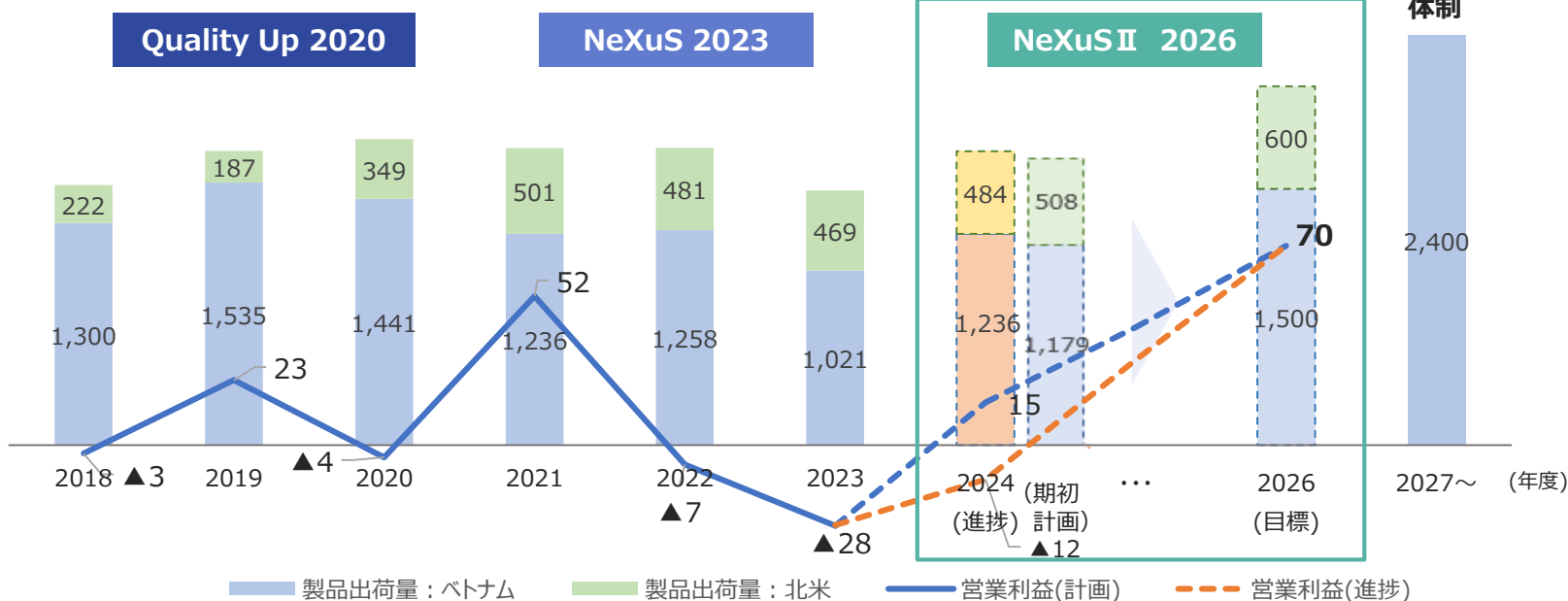
初年度の状況

- ① ベトナム事業は北部で厳しい環境継続も、全体では回復の兆し
- ② アルタ・スチール社の業績好調、ビントン・スチール社は下期に向け赤字幅縮小へ

<近年の状況と中計目標>

(千トン/億円)

2,400千トン
体制

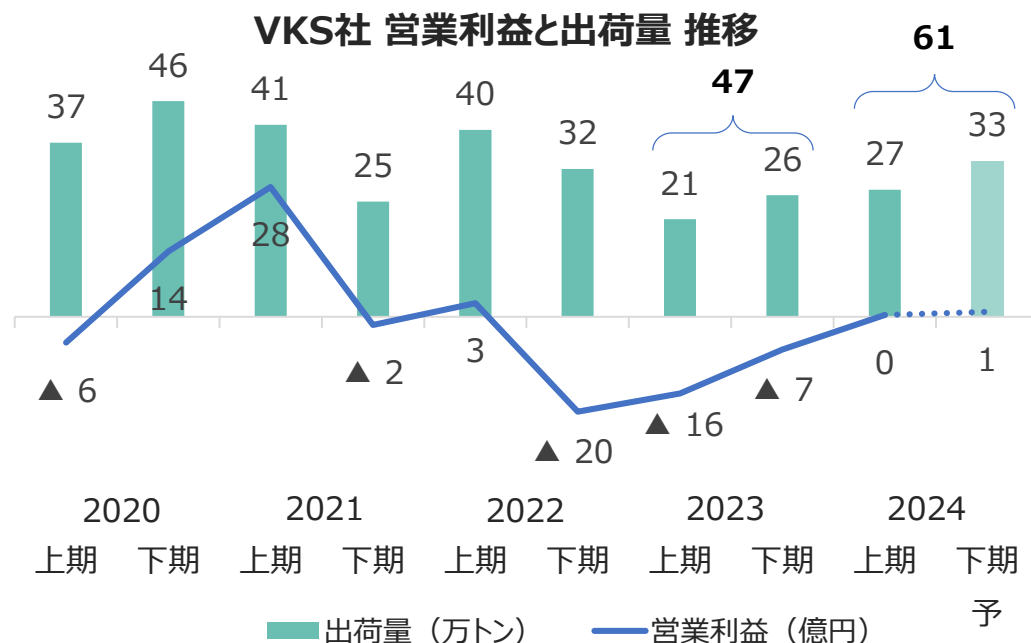


■ VKS社

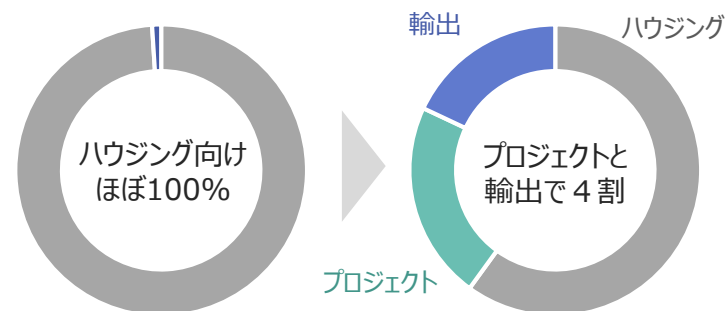
- 販売：出荷先をハウジング向けほぼ100%からプロジェクト向け・輸出を4割程度にウエイトシフト
出荷量は前年度対比29%増見込み
 - 購買：業務改善プロジェクト進捗中、コンテナ屑の定期調達により市況変動リスクの軽減図る
 - 製造：コスト削減策の継続
- ⇒ 上期黒字化達成、通期も黒字化に目途



セメント協会などでセミナーを行い品質をアピール



販売内訳



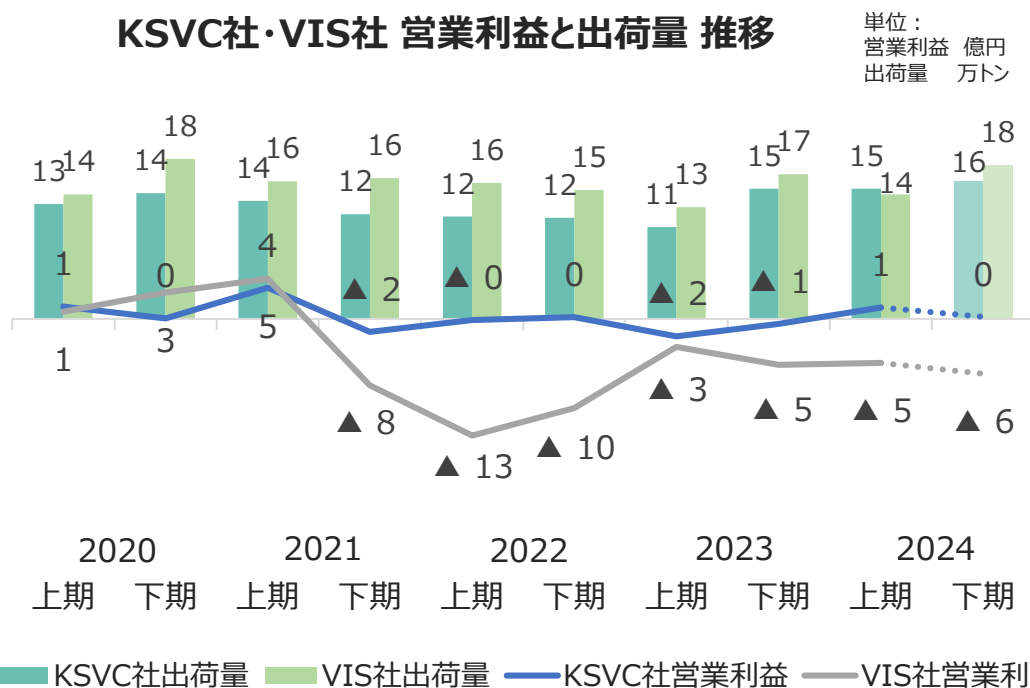
■ KSVCS社

- 販売：
顧客に寄り添う緻密な営業活動を徹底
- 経営：
安価ビレットの調達と低在庫操業を継続し
営業利益黒字化（通期）見通し

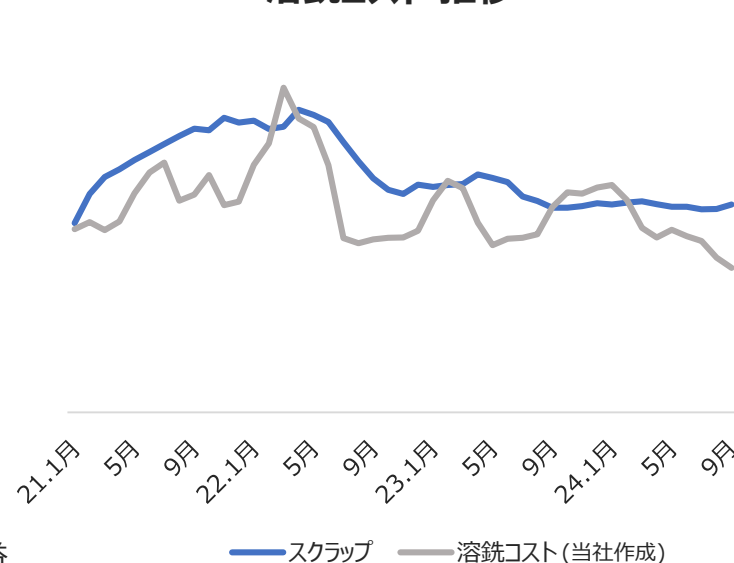
■ VIS社

- 販売：
出荷量増加も、高炉優位な市場において
安値攻勢に苦戦
- 経営：
北部市場においては当面厳しい事業環境が継
続すると想定。来年4月に竣工するハイフォン
工場の運営形態を検討中（スライド21）

KSVCS社・VIS社 営業利益と出荷量 推移



VIS社スクラップ消費単価
溶銑コスト 推移



■ 内容・コンセプト

- 最新設備のベトナム最速の圧延ラインを新設、直送圧延生産によるコスト競争力向上
- 生産能力：50万t/年

■ 背景・目的

- ベトナム条鋼需要は2024年上期まで影響が残るも、2025年以降は大型公共事業等の需要喚起により従来水準まで回復する見通し
- ミニ高炉や誘導炉などコスト構造の異なる競合が多い北部で生き残るには競争力の高いミルの実現が必須

■ 金額

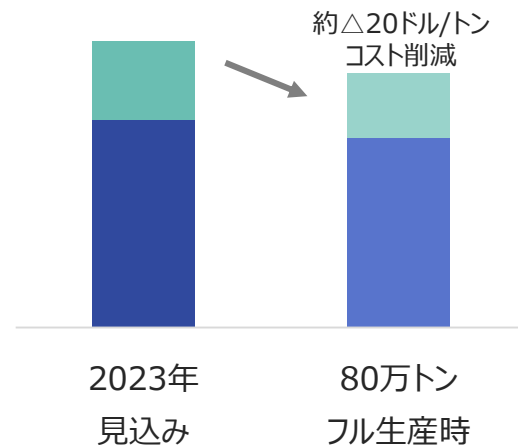
投資総額：約80百万USD

■ スケジュール

工事開始：2023年11月
操業開始：2025年4月

製造コスト改善

■ 製鋼 ■ 圧延



■ 設備投資の進捗

- ・ 工事は順調に進行中
(9月に大型台風がベトナム北部に直撃するも、影響は軽微)
- ・ 25年2月 コールドラン開始予定
- ・ 25年4月 ホットラン開始予定



■ 足元の事業環境を踏まえて

- ・ ハイフォン工場の生産体制計画を一部見直し：
競争の動向と原材料相場（スクラップと鉄鉱石）を見極め、
適宜外部ビレットを活用した機動的かつ柔軟なリバーシブル操業体制
⇒ メタルスプレッドが過去最低水準となっても赤字にならない運営体制で黒字化へ



建屋が完成



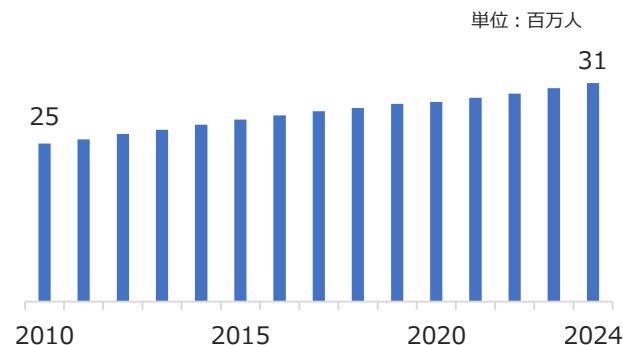
冷却床付近架台基礎

■ ビントン・スチール社

<足元の需要環境>

- ・ 市況、販売単価はやや軟化状況
- ・ 米国・テキサス州は人口増加地域であり、インフラ整備等の需要により今後も堅調な鉄筋需要が見込まれる

テキサス州の人口推移

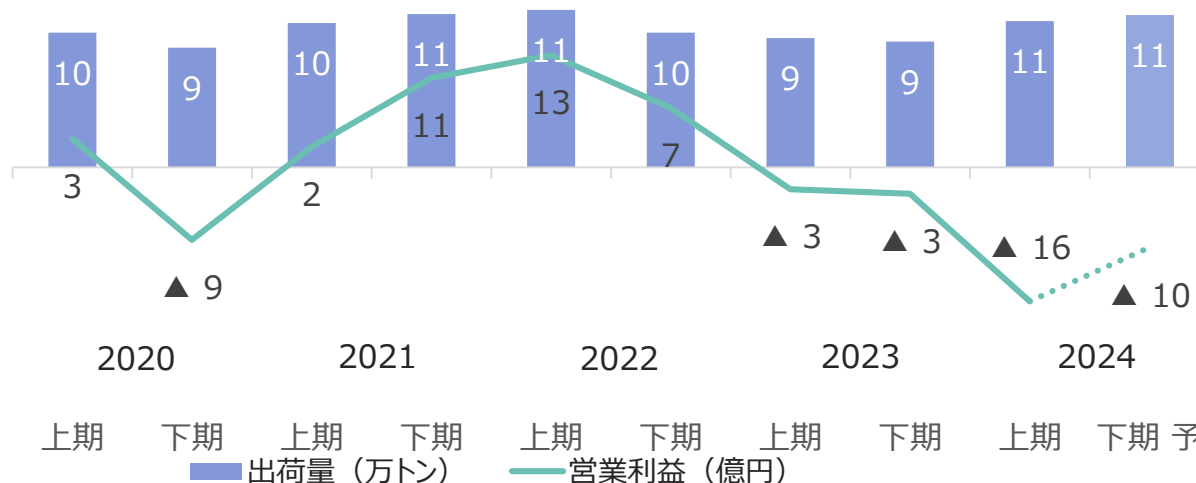


出典：World Population Review

<今後の見通し・対策>

- ・ 経営：あらゆるコスト削減を徹底、現ミルでも今年12月に月次黒字化を見込む
- ・ 販売：販売チャネルの再構築により2万トン/月の販売量確保にめど、鉱山向け鉄鋼製品事業の強化
- ・ 購買：スクラップの調達体制の見直し
- ・ 製造：本社EN室による操業支援、コスト改善アクションプランを継続中（40ドル/t 削減を見込む）

Vinton社 営業利益と出荷量 推移



〈中計方針〉

大型投資（約600億円）により
出荷量50万トン体制を構築



〈一部変更〉

既存圧延ラインを活用した製鋼工場
新設計画（約345億円）により
出荷量30万トンを安定生産

変更の背景：

市況や需要環境を鑑み、既存の販売チャネルを活かした着実な拡販計画に変更。
現有のスクラップ工場を活用し、原料調達面で適正調達可能な計画に変更。

〈設備投資計画案〉

■ 目的

- 老朽化対応、生産性向上による抜本的な収益の安定化

■ 概要

- 設備投資：製鋼工場新設、
既存圧延設備一部改造
- 生産能力：年産30万ネットトン
- 総投資額：約230百万米ドル
(約345億円 150円/ドル換算)
- 生産品目：鉄筋棒鋼、鉄球用丸鋼

■ スケジュール

- 現在詳細設計中
- 工事開始：2024年12月以降
- 稼働開始：2027年1月

海外鉄鋼事業：カナダ拠点のさらなる強化

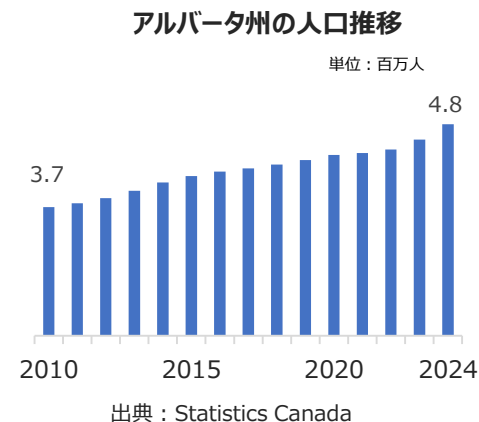
■ アルタ・スチール社

<足元の需要環境>

- 上期は需要家の買い控えと鉱山一時閉鎖により出荷量がやや減少
- アルバータ州は人口増加地域であり、インフラ等の需要により、今後も堅調の鉄筋需要が見込まれる

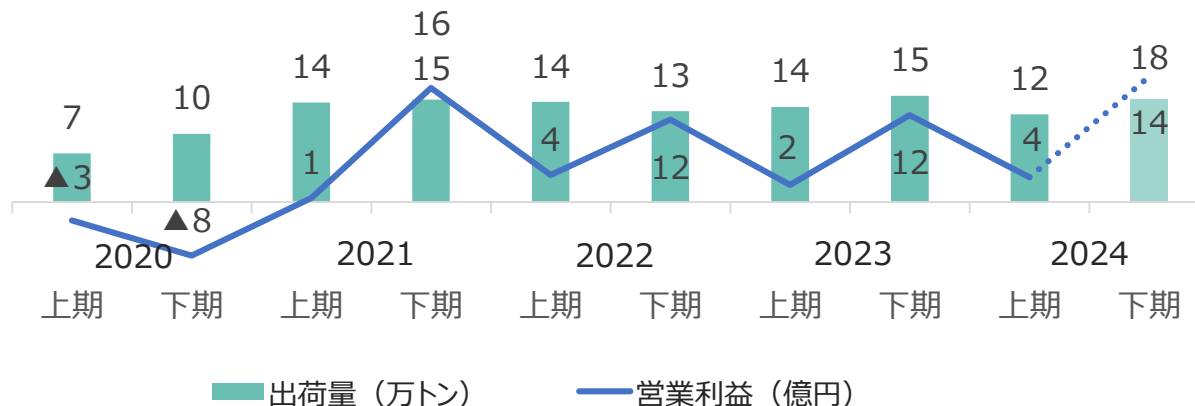
<今後の見通し・対策>

- 販売：細物鉄筋の商業生産が本格化、エキストラ価格によるスプレッド拡大と出荷量増加を見込む
- 製造：圧延設備改造工事は完了
出荷能力増強のための出荷ヤード建設は、来春に完工予定鉄筋事業のフルサイズ供給体制が整う



アルタ社の細物鉄筋

Alta社 営業利益と出荷量 推移



建設中の出荷ヤード

＜初年度の状況と対策＞

- 上期は医療廃棄物処理における競合激化で苦戦
- 下期は難処理廃棄物の受注により収益改善を見込む

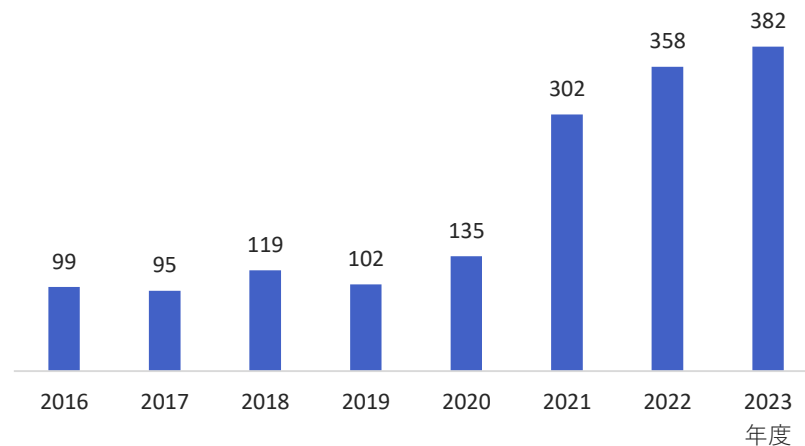
＜今後の見通し・対策＞

- 原点に立ちかえった営業活動の実施（電炉溶融処理の社会貢献性の訴求）
- 難処理廃棄物（アスベスト）の許認可拡充を進める
- 処理単価の高いフロン破壊処理の強化により収益改善を目指す

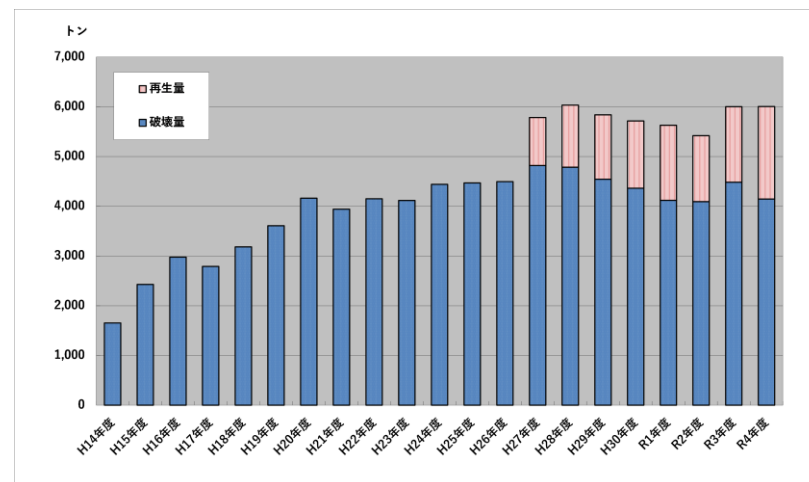


フロン処理設備

フロン破壊量の推移（当社） 単位：トン



フロン破壊量の推移（全国）



（出典：環境省）

1. 無形資産投資

- ・多種多様な人材確保に向けた環境整備や教育研修体制の整備
- ・山口事業所 事務所厚生棟リニューアル
- ・「エシカルスチール」を起点にしたアウター・インナーブランディングを展開



山口事業所新事務所棟

2. 「100年企業」を目指したESG経営

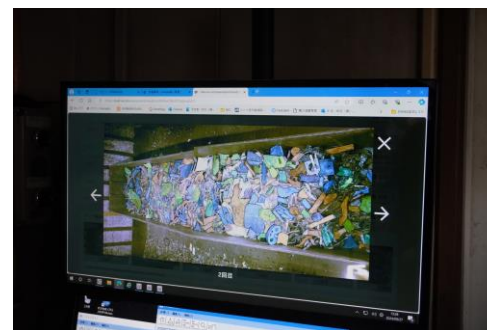
- ・燃料転換の推進（山口・関東）
- ・太陽光発電設備の設置検討（名古屋・関東）
- ・オリーブ植樹活動の継続
- ・地域活動への参画



山口事業所の太陽光パネル

3. 経営基盤の強化

- ・DXの強化：スクラップのAI検収導入、RPA導入
- ・財務格付 A格 維持
- ・自己資本比率 54.9%⇒57.6%
(24/3末) (24/9末)



AIによるスクラップ検収中の画面（枚方）

我々の問題認識

国内の
人口減少社会の
到来

急増する世界の
人口

温暖化による
地球環境変化

グローバル化の
変質

テクノロジーの
加速度的進化

変化する
政治経済情勢

これらの問題に対応した中期経営計画のポイント

1

縮小する国内需要を
補う世界3極体制の
確立

2

都市部への人口集中に
対応した首都圏戦略

3

資源循環型社会の
到来に向けた環境リサイ
クル事業の質的強化

我々の現在位置

世界3極体制の枠組み
は構築。安定的な収益拡
大を目指す

関東スチールの合併を実
現、今後需要動向を見て
具体化

ブランド戦略の下、資源循
環に資する電炉溶融処理
の付加価値を訴求

参考：連結貸借対照表

■ 資産の部

	2023/3末	2024/3末	2025/3 2Q	増減
現金預金	577	576	550	▲ 26
売上債権	814	934	746	▲ 188
棚卸資産	675	650	731	81
その他	40	48	56	8
流動資産合計	2,106	2,209	2,083	▲ 126
有形固定資産	1,022	1,014	1,081	66
無形固定資産	40	38	36	▲ 1
投資その他	209	281	280	▲ 1
固定資産計	1,271	1,333	1,397	63
資産合計	3,377	3,542	3,480	▲ 62

■ 参考：経営指標

	2023/3末	2024/3末	2025/3 2Q	増減
自己資本比率	53.2%	54.9%	57.6%	2.7pt
ネットDELシオ	0.23倍	0.18倍	0.18倍	▲0.00pt

■ 負債・純資産の部

(単位：億円)

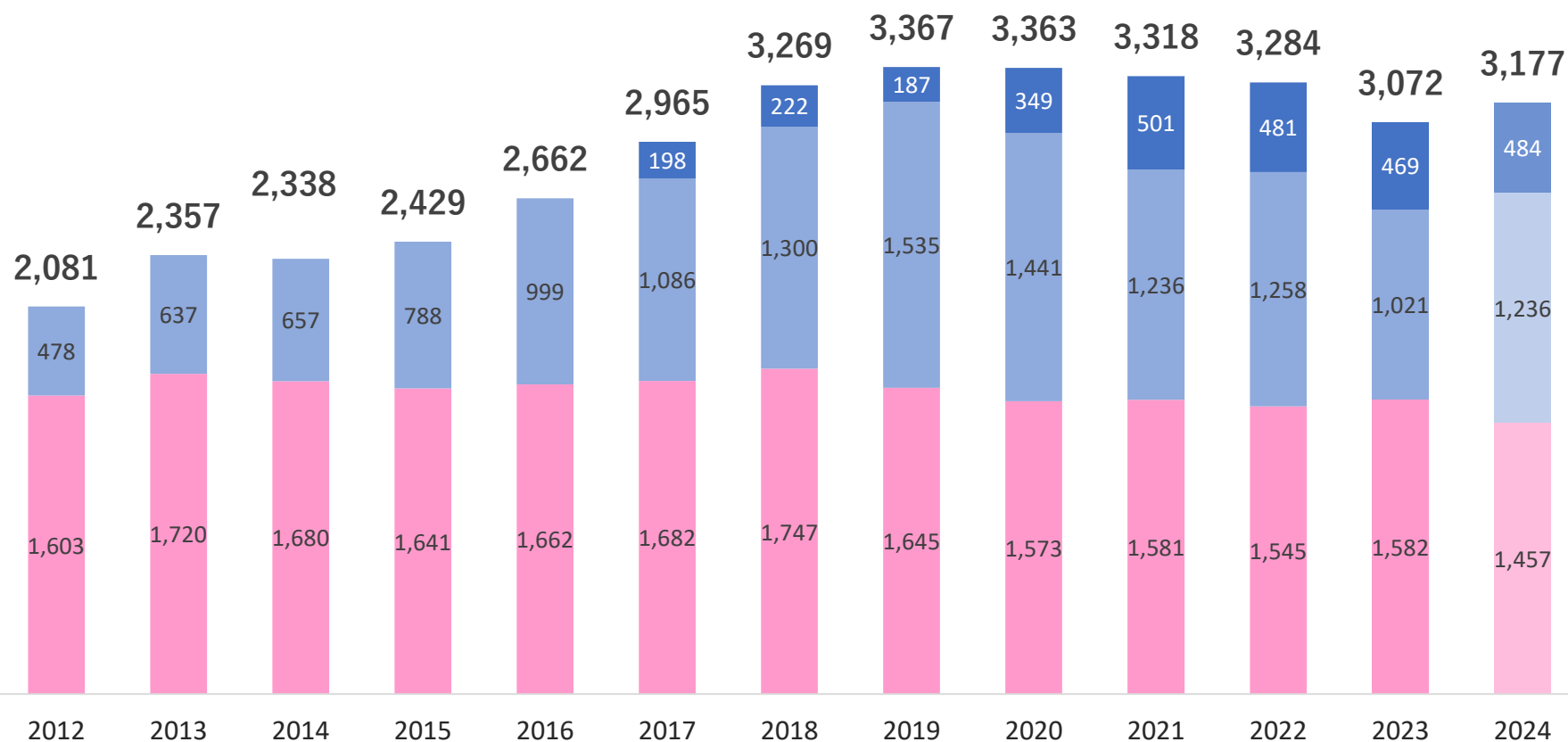
	2023/3末	2024/3末	2025/3 2Q	増減
仕入債務	190	252	210	▲ 43
短期借入金	626	601	604	2
その他	181	226	165	▲ 61
流動負債合計	996	1,079	978	▲ 101
社債	100	100	100	0
長期借入金	270	226	207	▲ 19
その他	109	122	125	3
固定負債合計	479	449	433	▲ 16
負債合計	1,475	1,528	1,411	▲ 117
純資産の部				
自己資本	1,797	1,946	2,004	57
非支配株主持分	105	68	66	▲ 2
純資産の部合計	1,902	2,014	2,069	55
負債・純資産合計	3,377	3,542	3,480	▲ 62

参考：製品出荷量 推移（国内・海外）

ベトナム拠点の需要回復により出荷量が増加し、グループ全体で前年比増の見通し

■ 国内 ■ ベトナム ■ 北米

(千トン)

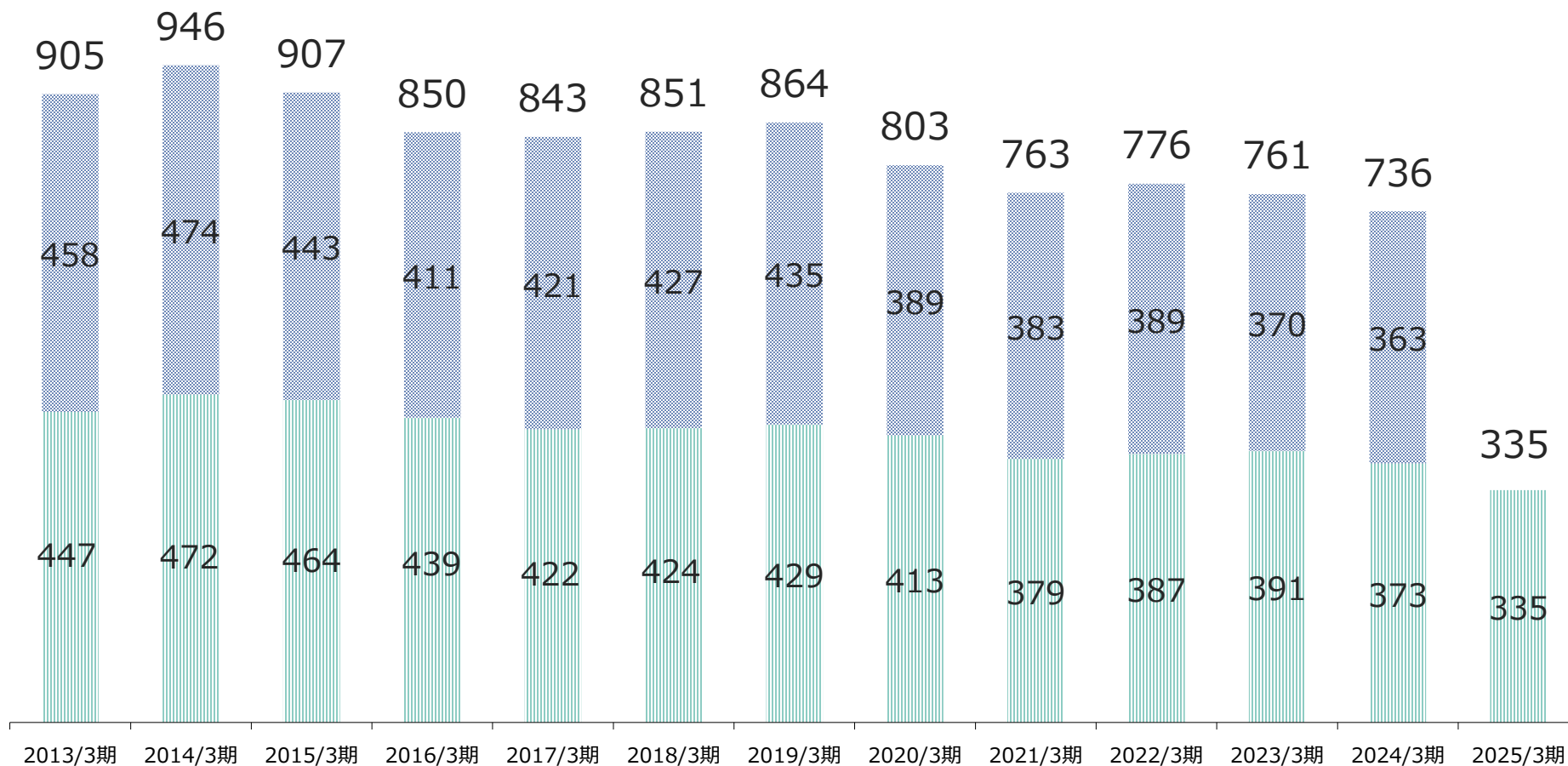


見通し
(年度)

参考：国内小形棒鋼生産量 推移

■ 上期 ■ 下期

(万トン)



(出典) 日本鉄鋼連盟資料

参考：当社グループの国内拠点



山口事業所

異形棒鋼（全サイズ）、構造用棒鋼、
小形形鋼（平鋼、Iバー、等辺山形鋼）



枚方事業所

異形棒鋼（細物）、丸鋼



共英産業(株)

鉄筋加工、鋼材販売ほか



共英マテリアル(株)

スクラップ集荷・加工



(株)吉年 鋳物製造



(株)共英メソナ

環境リサイクル事業



関東事業所

異形棒鋼（細物）



名古屋事業所

異形棒鋼（全サイズ）、
ネジ節鉄筋、高張力鋼

その他の国内拠点

- ・ 共英リサイクル(株)
- ・ 共英加工販売(株)
- ・ みどり精密工業(株)
- ・ 中山鋼業（持分法適用）



参考：当社グループの海外拠点（ベトナム）



1 ベトナム・イタリー・スチール社（VIS社）

ベトナム フンエン省

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、線材）

生産能力：製鋼45万トン/年、
圧延30万トン/年



製鋼工場（ハイフォン）

2 キョウエイ・スチール・ベトナム社（KSVC社）

ベトナム ニンビン省

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、線材）

生産能力：圧延30万トン/年



3 ビナ・キョウエイ・スチール社（VKS社）

ベトナム バリア・ブントウ省

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、丸鋼、形鋼、線材）

生産能力：製鋼50万トン/年、圧延90万トン/年



4 チー・バイ・インターナショナル・ポート社（TVP社）

ベトナム バリア・ブントウ省

事業内容：港湾事業



5 ビナ・ジャパン・エンジニアリング社（VJE社）

ベトナム ハイフォン市

事業内容：鋳鉄製品製造・販売

生産能力：9,000トン/年





アルタ・スチール
(アルバータ州)

1

ビントン・スチール
(テキサス州)

2



1 アルタ・スチール（AltaSteel）社

カナダ アルバータ州

事業内容：鋼材の製造・販売、
スクラップメタルの処理・販売

生産能力：製鋼30万トン/年
圧延27万トン/年

設立年：2020年（創業は1955年）

2 ビントン・スチール（Vinton）社

米国 テキサス州

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、鉄球）

生産能力：製鋼25万トン/年、
圧延20万トン/年（棒鋼）
鍛造 5万トン/年（鉄球）

設立年：1962年

免責事項

- 本資料に掲載されている情報には、当社に関する将来予測や業績予想が記述されていますが、これらは潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおり、将来の業績を保証するものではありません。業績結果が経営環境の変化などによって、見通しと異なったものになる可能性があることをご承知おきください。
- これらの情報を利用することで生じたいかなる損失や損害に対しても、当社は一切責任を負うものではありません。

 **共英製鋼株式会社**